

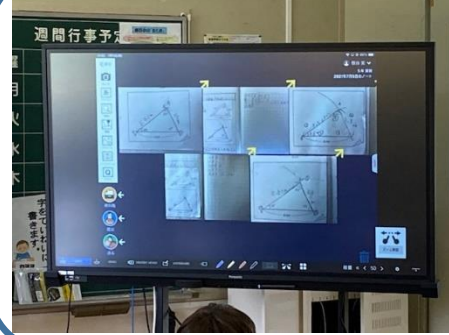
竹田市立都野小学校 【ICT活用の実際、自立した学習者の育成】

1. ICT活用の実際

Ipadを活用して
解き方の説明を記入



6年 算数科 ⇒ 1人1台端末の活用



5年 算数科 ⇒ ノートの拡大投影



1年 道徳
⇒ 板書と教材の連動

2. 自立した学習者の育成



たてわり班そうじや
月目標の「振り返り」

ノートに「振り返り」記入



自学ノートの取組

月ごとの振り返り設定



1. 6年の算数科では、児童が『等しい比の性質』という授業において、1人1台端末の活用が見られました。間違った解き方に対する指摘を自分の言葉で説明していました。Ipadに直接書き込みを行っていました。5年の算数科では、『合同な三角形』の授業では、指導者が児童のノートを撮影し、学級で考えを共有していました。また、1年の道徳では、板書が構造化され、拡大された教材と一体化し、効果的な授業展開を支えていました。

2. 『自立した学習者の育成』として、すべての児童が目にする事ができる昇降口の正面に、たてわり班そうじや月目標の「振り返り」についての掲示物が設置されていました。6年の教室には、自学ノートの取組の好事例が示され、他の児童の取組の見本となっていました。個人が設定したためあての掲示物には、月ごとで振り返りができる工夫が見られました。また、授業の終末には、各自のノートに振り返りを真剣に記入したり、1年の道徳では、自分の考えを発表したりする姿を目にすることができました。